琉大と首里城

～未来編～

琉大が描く首里城の未来。

2020年守礼門

※首里城再興学術ネットワーク

西田：地域との交流や貢献も設立当初から行われていましたね。

首里キャンパスは街の中にあって、地域との関わりが深かったのですが、西原に来て地域との関わりが少し薄れた気がします。今後はどの様にもう一度地域に浸透していくのかが、大きな課題かと思います。

狩俣：この広いキャンパスから、学生の目を地域に目を向けさせることは大切です。例えば本土から来た観光客を学生がボランティアガイドとして案内して、沖縄の歴史や文化を伝える授業を作るとかはどうでしょう。琉球アジア文化学科では、新入生が首里の街を歩く首里巡検という授業があります。沖縄出身なのに首里城に行ったことがない、玉陵（たまうどぅん）に行ったことがないという学生も多いので、地域へと目を向けさせているのです。

西田：『琉球大学未来地域共創フェア』も開催し、多くの人に来場してもらいました。未来のためには、周辺で子どもが参加できるようなイベントもやれば更に広がりができると思います。

首里城再興に琉大がどう切り込むか

西田：琉大が西原に移転したあと首里城は再建されましたが、昨年焼失しました。首里城と繋がりの深い琉大としてはどうするべきかという課題があります。私としてはすぐに学術面から、再興に貢献しなければいけないと強く思っていて、**首里城再興学術ネットワークを構築中**※です。現役の先生はもちろん、学生や名誉教授の先生も、さらに琉大だけでなく外の研究者の皆さんもネットワークを組んで首里城の再興について、学術面から議論できればと思います。

狩俣：琉大の名誉教授には高良倉吉先生とか、西村貞雄先生とか前回の首里城の復元に関わってきた方がたくさんいますよね。

それは琉大の知的財産ですよね。首里城の焼失は不幸な出来事ではありますが、琉大の知をもう一度結集して次の再建に向けイニシアティブを取るのは大事なことだと思います。

狩俣：そういう意味で、琉大は元々あの場所にあり人材を養成してたという、琉大の建学の精神や熱意をPRするのは大切だと思います。あの場所に再び首里城を復元するために、琉大の叡智を使わせてください、というのはとても理にかなっていますから。

西田：首里城は世界文化遺産ですが、それは地面の下（地下遺構）なんですよね。上（今回焼失した正殿など）はまだそういうものではありませんが、極力元あったものに可能な限り近いものを再建して、おそらくそれが100年以上経てば、少なくとも国内では平成・令和の叡智を集めて再建した文化的な遺産となるのではないでしょうか。長期の視点で積み上げていく必要があると思います。

西田 睦
Nishida Mutsumi
学長
【専門分野】
海洋生物学、分子進化生物学

狩俣 繁久
Karimata Shigehisa
名誉教授
島嶼地域科学研究所 客員研究員
【専門分野】
日本語学
言語学